

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
<b>開竅剤 温開剤 1</b>		
<p>そごうこうがん 蘇合香丸</p>	<p>温通開竅・行気化濁</p>	<p>白朮・青木香・犀角・香附子・朱砂・訶子・檀香・安息香・沈香・麝香・丁香・華撥各 60g・竜腦・蘇合香・乳香各 30g 成薬、1日1~2回3gずつ服用する。</p>
和剤局方	<p>&lt;主治&gt; 寒閉 突然の意識障害、牙関緊急、手を握り締める、舌苔が白、脈が遅などを呈す。</p> <p>&lt;病機&gt; 寒邪、痰濁などにより気機と神明が閉阻されて生じた閉証である。 蒙閉神明により意識障害が、気機閉塞により牙関緊急、手を握りしめるなどがみられ、舌苔が白、脈が遅を呈するのは熱証でないことを示す。 意識障害をきたすと同時に失禁、口があく、手がだらんと開くなど気血散乱の虚脱を表わす「脱証」と区別するために「閉証」と称する。また熱証でないので「寒閉」という。</p> <p>&lt;方意&gt; 「閉は開くべし」で、寒邪、痰濁には散寒、化痰濁により開竅醒神する。 辛香の蘇合香・安息香が主薬で、麝香・竜腦・青木香・白檀香・沈香・乳香・丁香・香附子が補佐し、芳香開竅、行気解鬱、散寒化濁すると共に臟腑気血の鬱滞を除く。華撥は散寒止痛、開鬱を強め、犀角は豁痰解毒に、朱砂は鎮心安神に働く。補気健脾、化濁の白朮と収斂斂気の訶子は、他薬の辛香太過による正気耗散を防止する。 芳香開竅を主体に辛香行気の薬物を大量に配合しており、温潤の代表方剤である。</p> <p>&lt;参考&gt; 散寒、行気止痛の効能をもつので寒邪による突然の腹痛にも有効である。 本方（蘇合香丸）は香竄走泄し胎気を損じるので、妊婦には用いない。 脱証には禁忌である。</p>	
<p>かんしんそごうがん 冠心蘇合丸</p>	<p>芳香開竅・行気止痛</p>	<p>蘇合香 50g・竜腦・乳香各 105g・檀香・青木香各 210g 蜜丸にし、1日1~3回1gずつ服用する。</p>
中国薬典	<p>主治は、痰濁気滞による狭心痛、胸苦しいなどの症候。 本方（冠心蘇合丸）は蘇合香丸の加減であり、心絞痛に有効である。</p>	